



# みらいっうしん

7月号

2018年7月2日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 長南 康子

## 【保育参加】 乳幼児期の教育

梅雨明けを待たずに、プール開きになりました。水で遊ぶことが大好きな子ども達の本格的な“夏”がすぐそこまで来ています。今はプールや水遊びがちょっと苦手という子どもも、水で遊ぶ楽しさや面白さを感じることができるように、指導の工夫を行っていききたいと思います。

さて、保護者の皆様に日常の保育に参加していただく幼児部の【保育参加】を実施して3年目になります。子ども達と一緒に遊びながら、お子さんの園生活の一端をご覧いただく機会としています。「主体的に遊びを見つけて、友だちを関わる姿にわが子の成長を感じた」という感想などをお寄せいただいています。この【保育参加】は本園の教育・保育の方針を皆様にご理解いただくこともねらいとしています。

子ども達の成長する姿は年齢による発達段階は勿論、一人一人その時、その場の心情で異なります。昨日と今日では違う姿を見せることがあります。ゆえに、保育を観るということはとても難しいことです。

私たちも、他園の保育を見学する機会があります。みんなで一斉にまとまった活動をしている保育は、誰がどのように何をしているのか、その場の様子がよく分かります。しかし、自由な形態で、それぞれが好きなことを選んでする保育場面を見ることはとても難しく、気を付けなければならないこともあります。保育者の間では、子どもを点で見ないで、線や面で見るとよく言われます。例えば“けんか”の場面もその前後の経過があります。子どもの社会性を育てるためには“けんか”も避けて通れません。自由な形態の保育では保育者がその場にいないこともあります。しかし、子ども達同士で解決したり、保育者を呼びにきたりする行動もその時々で教育の重要な場面となります。

子どものその時を観れば、保育の全てが分かるとはなかなかいきません。専門職でも一人の子どもの数時間の行動をビデオで追って、分析をしなければ本当のことが見えてこないこともあります。難しいことであっても、一人一人の育ちを支える教育として私たちの方針は保育者主導の教育ではなく、子どもが自ら周りの環境に働きかけながら学び取る保育を根気強く実践していきます。解説なくして普段着の保育を開示することには勇気のいることですが、同じ考えの基で、子ども達の可能性をより豊かに広げたいという思いでおります。乳幼児期に育てたい力は何か、一人一人の人間形成の基礎づくりのためにどのようなことを大事にしていけばよいかを考えながら日々子ども達と接していきたくて考えています。



### 「ヘルメット・シートベルトが子どもを守ってくれました！」

保護者の方から貴重な体験談をお聞きました。「先日、自転車に子どもを乗せて坂道を下っている時、ブレーキ操作を誤り、親子で転倒してしまっ。子どもは頭を打ったが、ヘルメットを着用していたので、大事には至らなかった。」ということでした。※どんなにヒヤッとされたことでしょう。自転車の定期点検の必要性もお話しくいただきました（特に、電動自転車）皆様、事故に遭わないよう、十分に気をつけましょう。